

サポクラ 通信

令和4年(2022年)3月号

今月の内容は...

- ・リフォーム大作戦1
- ・円山のオオムラサキ7
- ・シマフクロウとオオワシの繁殖202210
- ・フンボルトペンギンの健康管理について13

リフォーム大作戦！！！！

円山動物園サポートクラブのみなさんこんにちは。

エゾユキウサギ、スンドスローロリス、オグロプレーリードッグ担当の飯島です。

担当が少しだけ変わりました！引き続き、よろしくお願いいたします。

今回は動物が生活している部屋、

「展示場」「獣舎」のリフォームについて、お伝えしようと思います。

リフォームといっても、私たちが自宅のキッチンを変えたり、

壁紙を張りなおしたり、そんな大きなことではありません。

動物が暮らしやすい、そして、刺激になるような変更をご紹介します！

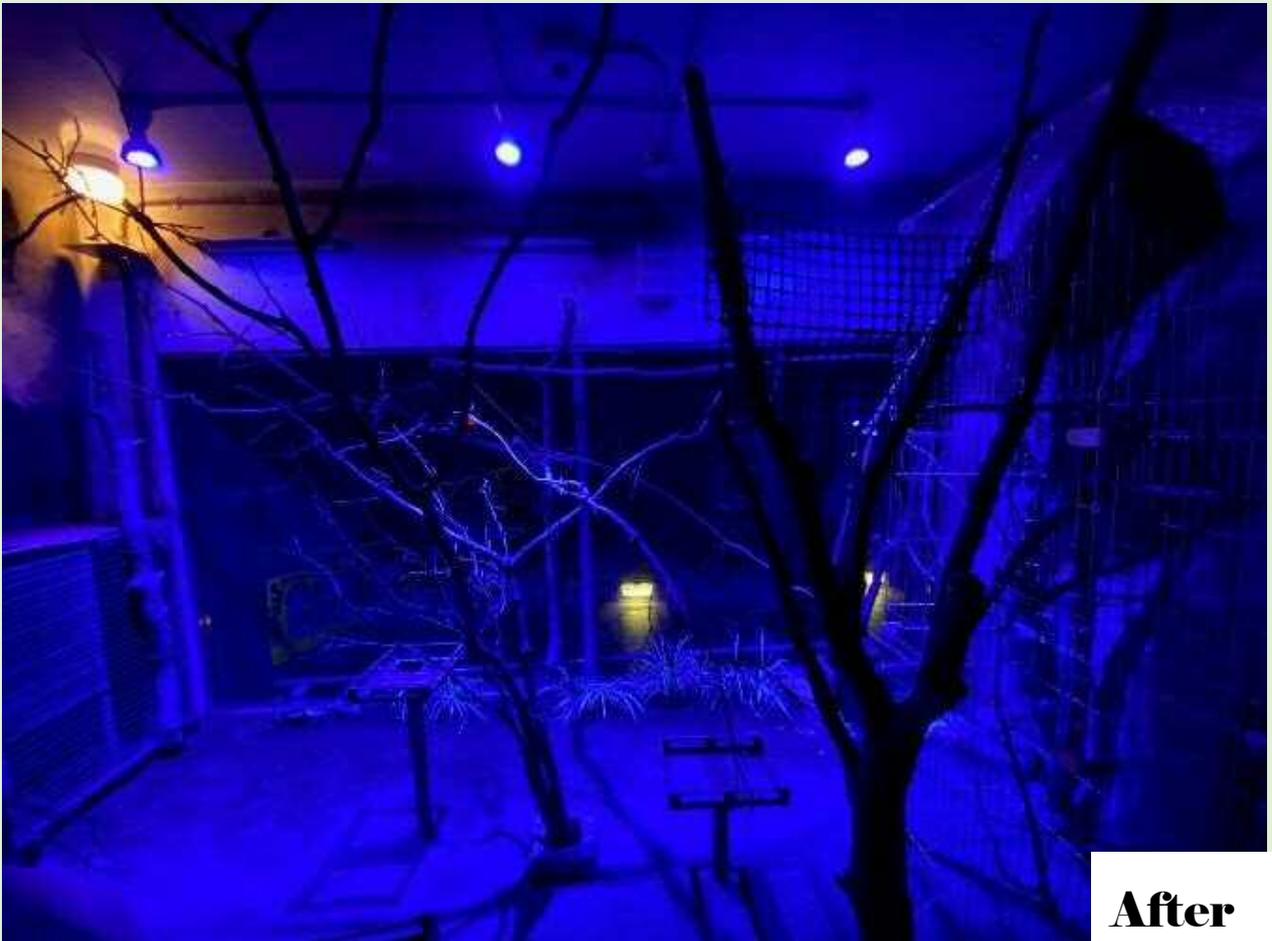
<スンドスローロリス>



円山動物園では、スンドスローロリスを7頭（オス2頭、メス5頭）飼育しています。
上の写真は、2021年6月に、広島市安佐動物公園から来園した「ナロ（オス、奥側）」と、
「かおり（メス、手前側）」です。現在、繁殖を目指してペアリングしています。
この2頭が同居している展示場を、11月にリフォームしました！！



Before



After



園路側から見た写真

★夜行性のスローロリスが起きている姿をご覧いただくために、展示場内の照明を昼夜逆転させています。
青い光は紫外線を含んでおり、日中の太陽光を再現しています。

スローロリスは樹上で暮らすサルの仲間です。

「かおり（メス）」は、地面を移動することもあるのですが、基本的には木の上を移動します。

そこで、地面にアクセスする木を減らし、展示場上部の木を増やしました。

また、今までは太い木を中心に組んでいたのですが、野生のスローロリスはおそらく細い枝も使いながら生活しているだろう、という予想から、枝の先端部分も切り落とすことなく使用しました。

展示場内に入れている樹木の種類は、樹種が不明なものもあったのですが、事前に、植物に詳しい職員と相談して、ミズナラ、イタヤカエデ、ネグンドカエデ、クワ、ネムノキ、ミズキを設置しました。

これらは樹液が出る種類（イタヤカエデ、ネグンドカエデ）やスローロリスの生息地である東南アジアに近縁種が生えている種類（ネムノキ）など、木をかじって樹液を食べるスローロリス本来の生態が引き出せるように選びました。

変更した初日は2頭とも警戒するかな？と思いましたが、「ナロ」はさほど警戒することなくよく動き回っていました。「かおり」も初めは警戒していたものの、翌日には特に気にする様子もなく、今までと同じように展示場内を移動していました。

細い枝の部分も、手で安全を確かめながら使用するところを確認しました！

バランスをうまくとりながら移動している姿に感動しました。

そして驚いたのが、複数本設置したイタヤカエデのうち、1か所だけかじった跡がありました！

スローロリスは、樹液を食べるために木をかじる「ガウジング（gawging）」という行動をします。

数ある木の中からはなぜこの木を選んだのか…？樹液が出ているのか…？など、

まだまだ疑問はいっぱいなので、定期的に木を交換しながら

<スローロリスが好きな木>・<かじる木>

を発見していこうと思います！

<オグロプレーリードッグ>

オグロプレーリードッグは、現在9頭（オス5頭、メス4頭）飼育しています。

以前は、ビーバーの森展示場で、人工的な巣穴にいるプレーリードッグを展示していましたが、

展示施設の老朽化に伴い、2020年5月に現在展示しているカンガルー館展示場に移動しました。

移動してすぐは、以前の展示場と同じく目の細かい砂を使っていましたが、砂だと穴を掘ってもすぐに崩れてしまうので、2021年6月に赤土に変更しました。砂に比べると水をよく含み、しっかり固くなるので、巣穴を掘るのに最適です。しっかり水を混ぜ、土を盛るとすぐに掘り始めます。



そして翌日にはばっちり巣穴が出来上がっています。



出来上がった巣穴に、餌として与えている乾草を巣材の代わりとして運び、寝床を作ります。



そして、日中気温が低かったり、休息したりするときには巣穴の中に潜るのです。

実は、巣穴が完成したらそれで終わりではありません。

野生のオグロプレーリードッグは、草原地帯に生息し、とても大きな巣穴を作って暮らしています。草原にはアメリカバイソンなどの大型草食獣も生息しており、土浴び（体を土にこすりつけて、汚れ、寄生虫などを落とす行為）をすることで、プレーリードッグの巣穴が崩れてしまうことがあります。なかなかシビアな世界ですよね…

しかし、そんなことは日常茶飯事です。巣穴が崩れたら新しい巣穴を掘る、むしろ、アメリカバイソンの糞があることで土壌は豊かになり、エサである草をたくさん食べることができます。

プレーリードッグにとっては大切な隣人で、

「まあ、巣穴を壊されるくらい良いか」と思っているかもしれません。

動物園では共生している大型草食獣は居ないので、担当者が代わりに巣穴を壊す役割を担っています。壊している最中は非常に迷惑そうな、というか

「なんだコイツ…」みたいな視線を感じますが、気にせず巣穴を壊していきます。

壊し終わったあと、プレーリードッグたちは再び穴を掘り始めます。

かわいそうに思いますが、野生のプレーリードッグと同じように穴を掘ってもらうために、頑張っアメリカバイソン役を続けていきたいと思っています。

～お知らせ～

最後に皆さんにお知らせがあります！

現在、プレーリードッグの新獣舎を作成中です！途中経過を皆さんにご報告したいと思います！



↑ 3月4日



↑ 3月10日

今よりも地面を30センチかさ上げして、土の中も見えるような工夫をしました。

また、現在は奥行きがあるつくりになっていますが、横幅を少し広げ、奥行きは縮めることで今よりも近くで観察できるようになります。

完成は2022年4月を予定しておりますので、皆様どうぞ楽しみに！

<おわりに>

動物園でひそかに行われているリフォームは、なかなか気づかれることはありません。

大きな建物を作るときには注目を浴びますが、

それ以外にも日々の小さなことを改善するために工夫をしています。

「あ、なんか前回来た時と違うな」とか「前来た時よりも動物が見やすくなってる！」と思ったときは、もしかしたら担当者が何かリフォームをしたのかもしれない。動物園の1つの楽しみとして、ぜひ動物が暮らしている展示場にも注目してみてください。きっと、隠れたこだわりが見えてきます！

円山のオオムラサキ

サポートクラブの皆様、いつも応援ありがとうございます。
ニホンザル・アジアゾウ担当の石井です。

円山動物園では、園周辺の保全活動も実施しており、さまざまな動植物の調査・研究を行っています。そこで、今回は円山動物園に生息するオオムラサキについて紹介します



オオムラサキは蝶の仲間で、日本各地に分布しています。北海道にも生息していますが、生息地が限られています。主に札幌周辺部に集中しており、石狩市の浜益区が日本での北限になっており、小樽市や栗山町にも生息しています。特に札幌市は有名な産地で、藻岩山、八剣山、そしてここ、円山にも生息しています。豊かな里山環境に生息する生き物です。

ちなみに、オオムラサキは日本の国蝶に指定されています。
※国蝶とは、国を象徴する蝶のことで、日本昆虫学会によって選ばれました。

この綺麗な蝶が円山動物園内でも繁殖しており、観察を行っていました。

オオムラサキ日記

→4/19

エゾエノキの木周辺の落ち葉の下で冬を越します。
体の色は落葉に擬態していて茶色です。
大きさは2 cmくらい。ほぼ動きません。
雪の下でつぶれないよう、固い葉を選んでいきます。
円山動物園ではハルニレの葉が人気です。



←幼虫(正面から)
よく見ると愛嬌のある顔をしています。





←5/22

エゾエノキの葉が付く頃、オオムラサキの幼虫たちは木を登り、餌となるエゾエノキの葉を食べ始めます。まだ体は茶色。ここからの成長は早いです。

→7/10

葉をバリバリ食べ、どんどん大きくなります。この時で5cmくらいに。ムチムチです。



←7/10

別の個体が蛹になりました。蛹の様子はエゾエノキの葉そっくり。触るとブルンブルン震え、鳥などの天敵から身を守ります。恐らくこの蛹はオス。オスはメスより先に羽化し、オス同士でテリトリー行動(縄張り争い)をします。

→7/14

テリトリー行動をしているオス。この時期オスは縄張り争いが激しくなり、テリトリーに入ってきたほかのオスはもちろん、スズメや鳩など、鳥まで追い払います。



←7/26

求愛中のペアを撮影できました。オスとメスがひらひらと舞い降り、フキの葉に止まった瞬間カメラでパシャリ。4月頃から活動し始めた幼虫が3か月ほどで成虫になり、ペアができて産卵を終えると死んでいきます。そして8月頃、孵化した幼虫たちはまた厳しい冬を乗り越えるのです。生き物の儚く尊い命のつながりを見ることができました。

最後に 近年、円山のオオムラサキは減少傾向にあります。後世に、オオムラサキが生息する円山を残すためにも、より多くの方にオオムラサキについて興味を持っていただけたら幸いです。今後、円山のオオムラサキを観察できるような機会も作りたいと思っております。

シマフクロウとオオワシの繁殖2022

皆さんこんにちは。猛禽担当の菊池です。

今年も猛禽の繁殖シーズンがやってきました。

去年の4月に孵化したシマフクロウのヒナはずいぶんと貫禄が出てきましたよ。



2021年9月24日 → 2022年1月27日

去年は園内の野生復帰施設（非公開施設）のシマフクロウ繁殖ケージの工事を進めていたため、シマフクロウのクック（オス）とレイン（メス）にはしばらく別のケージで過ごしてもらっていました。

その間に巣箱や留まり木の更新を行い、去年の12月には元の繁殖ケージに戻すことができ、今年もたっぷり餌を与えてあとは本人（鳥）たちにおまかせというスタイルにすることにしました。

1月に入ると交尾と求愛給餌が確認できるようになりました。

シーズン初めの1, 2回は不完全な交尾でしたが、すぐに勘を取り戻したようで毎日完全な交尾をするようになりました。鳴き交わしはピーク時には一晩に40回を超えていました。



求愛給餌の様子

オス(左)がメス(右)に魚を渡している

野生ではオスが候補になりそうな巣を整えて、産卵直前にメスが産卵する巣を決定します。

今年から巣箱を二つ設置しましたが、クックは二つとも入念なチェックと巣材の整地を行っており、レインもたびたび巣の様子を確認していました。

観察していると、卵を産んだ年と産まなかった年では交尾や巣の出入りへの「やる気」が違います。

「今年は産むかな」と思いながら見守っていたところ、3月6日にはレインが巣にこもり始め抱卵姿勢を取り始めました。

翌日、レインが立ち上がった時に1卵目を確認することができました。

3月10日には2卵目を産卵しました。



2年連続して産卵が確認できたことで、きちんと繁殖のサイクルができているな、と安心することができました。

有精卵であれば4月10日前後に孵化する予定です。

途中で破卵する可能性もあるため、まだ不安はありますが無事育つことを祈っています。

今年は巣箱の中の様子をカメラでチェックできるため、抱卵・育雛の詳細な記録を取っていきたいと思います。

リアルタイムでお見せできないのが残念ですが、できる限りシマフクロウの最新の様子を「エゾシカオオカミ舎」2階のモニターや Twitter 等でお知らせしていきたいと思っていますので見守っててくださいね。

さて、猛禽舎のオオワシ「タカオ(オス)、雅(メス)」のペアですが、今年も卵を産みました。

タカオは雅の上にきちんと乗れておらず、まだ上手に交尾ができていないですが、昨シーズンより確実に上手になっています。

去年は卵が巣から転がってしまい抱卵している「つもり」になっていたのですが、



今年は卵の転がり防止用の木枠を設置しました。

今のところタカオも雅も交代しながら抱卵しています。

今は偽卵を抱いてもらっています。



抱卵の様子は猛禽舎で観察することができますよ。

個体群管理計画により、「雅」の血統を増やすことは出来ませんが「タカオ」に繁殖能力があることが確認できたため個体の受け入れ先が確保できれば、ペアを入れ替えて繁殖を目指す予定です。

現在抱卵中の「雅」を含む 3 ペアは個体群管理計画により繁殖制限を行っているため、産んだ卵の代わりに偽卵（偽物の卵）を抱かせ、産んだ卵は採卵しています。オオワシは一度に1～2卵しか産まないため採卵した卵は無駄にせず、オオワシの野生復帰技術の確立に向けたデータの蓄積に貢献してもらっています。



孵化前性判定のための採材中



貯卵（卵の長期保存）の実験中

今年は道内でオオワシの鉛中毒やオジロワシ・オオワシの高病原性鳥インフルエンザが確認されていて道内のワシを取り巻く環境は緊迫しています。

これらはなかなかすぐには解決しない問題ですが、飼育員の立場からすべきことをコツコツと続けていきたいと思えます。

飼育動物たちが快適に過ごせるように環境を整えること、その上で将来に備えて技術やデータを蓄積すること、多くの人に猛禽のことや猛禽を取り巻く現状を知ってもらうことなどすべきことは山ほどあります。



（足を伸ばしてリラックスしているオオワシ）

まだまだ足りないところがありますが、これからも精進していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

フンボルトペンギンの健康管理について

サポートクラブの皆さんこんにちは。エゾシカ・ペンギン・水鳥担当の町田です。
今回のサポクラでは月に一回行っている体重測定について紹介していきたいと思います。

○体重測定を行う理由

月に一回定期的に体重を測り外見のチェックをすることで個体の健康管理がしやすくなります。さらに換羽が近づくとペンギンはかなり体重が増加するため、体重を測ることで換羽のタイミングをある程度把握することもでき、換羽や食欲に合わせて餌の量を調節する時の目安にすることができます。

○使用する道具

バケツ

計り



○計り方



左の写真のように1羽ずつバケツに入れてバケツごと重さを図ることでできるだけペンギンに対する負担が少なく体重を図ることができます。

体重測定の際は餌の時間とは違いペンギンたちは飼育員に近づいてくることはほぼなく1羽1羽手で捕まえてバケツに入れます。捕まえる時には翼で叩いてきたり、嘴で突いてきたりとなかなか過激な抵抗をします。その抵抗の度合いにも個性があり、性格や年齢によっても違いがでできます。若い個体は捕まえる前も後もかなり抵抗してきます。老齢個体は若齢個体に比べると大人しい個体が多いですが、個体によっては捕まえられてから激しく抵抗す

る個体もあります。そのため、油断をしているとペンギンかもしくは自分達が怪我をしてしまう可能性があります。そのようなことにならないためにもペンギンたちが可愛いからと言って油断は禁物です。

○個体比較

標準体重



少し太り気味



上の2羽の写真を見ていただくと分かるかと思いますが、左の個体は体のラインがシュッとしている標準体重の個体で、右の写真の個体は少しふっくらしていて胸の辺りが標準個体よりも張っています。さらに、歩き方を見ていただくと、太り気味の個体はデベデベ歩いていて標準体重の個体とは少し違うのが観察できます。冬季になると夏季に比べてどうしても歩き回ったり泳いだりする回数が減り運動量が落ちてしまうため太る個体が増えてしまいます。そして、太り気味な状態が長い間続くと足の病気になる可能性が増えてしまうため、右の個体には厳しいようですが軽めのダイエットが必要になります。

これからもペンギンたちの健康管理を続けていきますので、ぜひ皆さんもペンギンたちの歩き方を見に来ていただければと思います。